

「令和3年度 新型コロナウイルス感染症拡大に係る実態調査」市町村調査結果(抜粋)

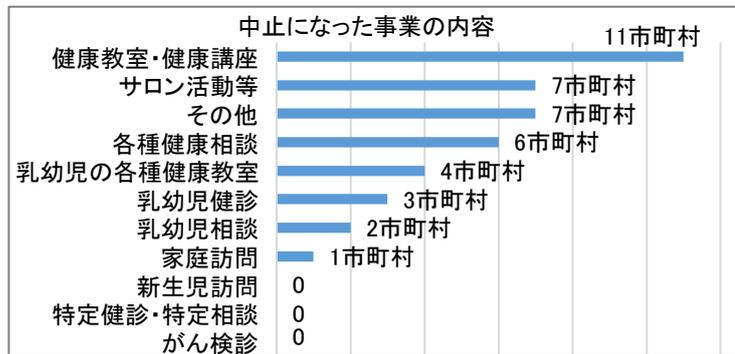
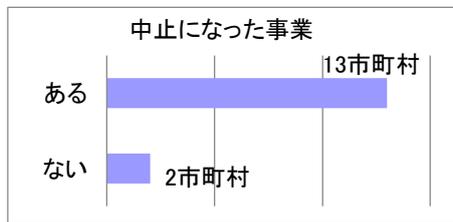
(山形県看護協会調査)

調査期間: 令和3年7月19日～令和3年7月31日

調査市町村数 35 市町村 回収数 15 市町村 回収率 43%

※山形県内35市町村の令和2年7月以降の状況について

○新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止になった事業はあるか。ある場合の中止になった事業の内容。



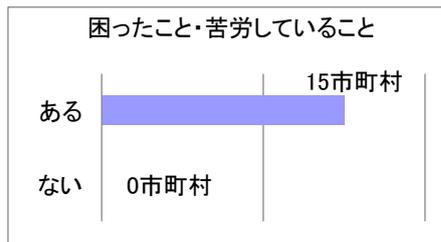
【その他の内容】

介護予防事業関係、100歳体操、介護家族教室、精神障がい者家族教室 など

○中止した事業で形を変えて実施したもの

- ・高齢者支援事業: 介護予防事業をパンフレット等の送付、訪問を電話訪問、高齢者向教室は定員制
- ・乳幼児事業: 乳幼児健診・相談は定員制、集団から個別対応
- ・健康教室関係: 定員縮小、内容の変更、出前講座に変更 など

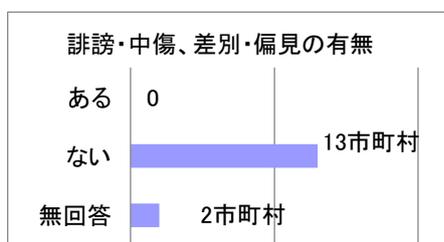
○新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、困ったこと・苦勞したことはあるか。



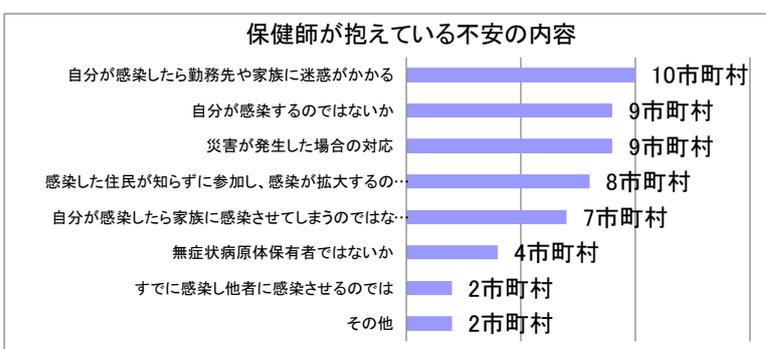
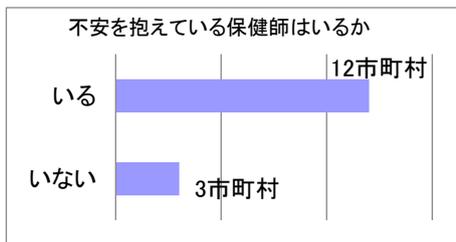
【困ったこと・苦勞していることの内容】

- ・活動時間の制限、広いスペースの確保、職員の増員など、各事業の実施時の感染対策
- ・事業の中止に伴う早急な対応や、ワクチン接種に関する苦情の対応など地域住民への対応
- ・高齢者事業において、事業への参加が消極的であったこと、事業再開時期の見極め
- ・妊産婦の事業・乳幼児の事業では、来所や訪問が心配だと言われなかなか会えないことがあった
- ・新型コロナウイルス感染対策に関する業務が加わったことでの業務量の増加
- ・通常業務を行いながらワクチン接種に係る業務を行うため、休日出勤や時間外勤務が増加した
- ・経験のない業務や業務量の増加等により、不安と緊張の連続であり、常に追い込まれ心身の疲労が蓄積している、など保健師のメンタルヘルスケア
- ・業務量が増え、人材が不足している

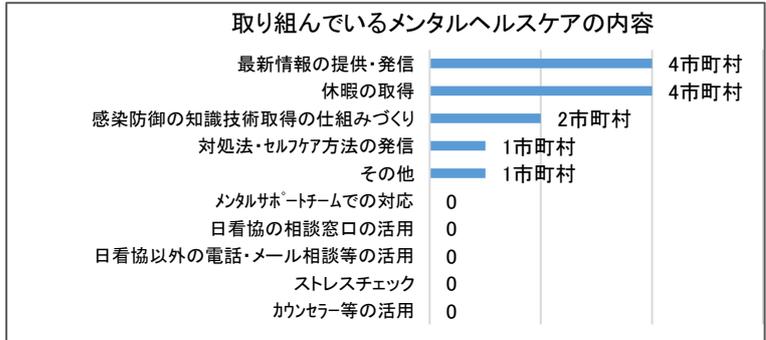
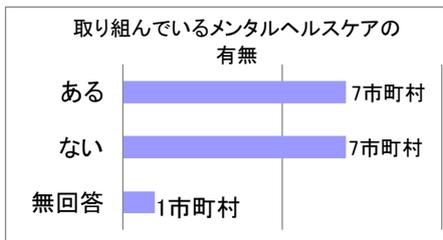
○保健師等にむけられた謂れのない誹謗中傷や差別・偏見などの実態はあるか。



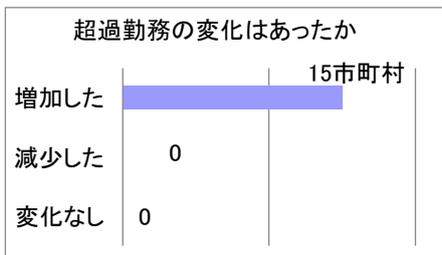
○新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、不安を抱えている保健師はいるか。抱えている不安の内容(複数回答)



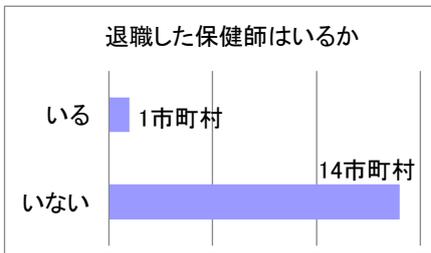
○メンタルヘルスケアとして取り組んでいることはあるか。ある場合はどのような内容か。(複数回答)



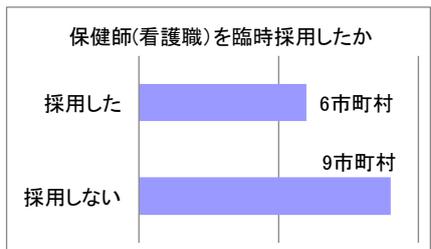
○令和2年7月～令和3年6月の期間の超過勤務時間について、新型コロナウイルス感染症拡大前と比べ変化はあったか。



○新型コロナウイルス感染症の対応を理由に退職した保健師はいるか。



○新型コロナウイルス感染症の対応のために、保健師(看護職)を新たに臨時採用(増員)したか。



○今後の課題について

- ・ワクチン接種業務の増加により、担当課の業務量が増加しているため、他課への分散と通常業務の優先度の検討が必要
- ・メンタルヘルスケア：業務量、時間外勤務・休日勤務の増加、苦情や問い合わせの対応等により疲弊している
- ・新型コロナウイルス感染症予防対策の継続、ワクチン接種業務なども併せた今後の体制の構築